



“自己の世界”の育成

— 個別化教育のもう一つのねらい —

副会長 加藤 幸次

生徒たちの非行や、いじめが問題になってきています。実に簡単に自殺する生徒たちが、増えているようにも思われます。なにか、生徒たちは“自己”というものをしっかりとらえていないのではないかと思います。また、自分以外の人間にも、その人なりの“自己”というものがあるということを、理解していないのではないかと思います。言い換えると、生徒たちは、自分についても他人についても、そこに“自己の世界”が存在するのだという認識をもっていないように思われます。そのことが非行やいじめ、あるいは、自殺の根本的な原因ではないかと思われてしかたがないのです。

考えてみると、これまでの学校教育は、明治以来“共通の世界”の確立にあまりにも重点を置きすぎてきたのではないかと反省させられます。国民に一定の学力を身につけさせることをめざして、国家的な基準がつくられていました。学習指導要領や教科書が基準と言ってもよいでしょう。教師の役割は、できるだけすべての生徒たちを、この基準まで引き上げることであったと言っても言い過ぎではないでしょうか。引き上げることができないのは、教師の力量不足と考えられてきました。したがって、教師は基準に引き上げようと、教材研究を丹念に行ない、発問や指示を工夫し、授業にのぞんできました。これまでの学校教育は、まさに、このことがねらわれてきたのではないのでしょうか。

今日でも、「学力保障」ということが叫ばれています。

「基礎・基本の重視」ということも、ややもすると、“共通の世界”のみにかかわって、考えられてきているように思われます。もちろん、公教育としての学校教育であってみれば、学力の保障や基礎・基本の重視ということは、当然、考えられるべきだとだと思います。

しかし、このような“共通の世界”の確立にかかわることだけが、学校教育のねらいであると主張されると、反対せざるをえないのです。“共通の世界”とともに、“自己の世界”の育成にも注意をはらわれるべきでしょう。多分、公教育のあるべき姿は、両者のバランスではないかと考えます。

“共通の世界”は“規格化の世界”であり、“標準化の世界”です。国民としての統一をはかり、国力を維持発展させるために不可欠なことではないかと思えます。他方、“自己の世界”は“自覚の世界”であり、“特殊化の世界”です。一人の生きていく人間として不可欠な自己成長の世界です。私たちは、前者に「指導の個別化」という概念を、後者に「学習の個性化」という概念を与え、両者のバランスを学校の教育課程の中で確立したいと願ってきたつもりです。

私たちは、明治時代以来の学校教育が、あまりにも前者に偏り過ぎてきたのではないかと反省しているつもりです。非行やいじめ、あるいは自殺の問題を解決するためには、やはり、“自己の世界”の育成にも重点を置くべきだと考えます。いかがでしょうか。

60年度の会費納入をお忘れの方へお願い

本会の運営は、会員の納入による会費で行なわれております。すでに、ご納入済みの皆様には心より感謝申し上げます。まだ、納入をされていない方は、どうぞお手元の郵便振替用紙（印刷された）によりお払込みください。12月までお願いいたします。用紙のない方は、

口座番号 **東京 8-180030** 会費 **2,000円**

加入者名 **全国個別化教育連盟 宛、お願いします。**

研究発表会のご案内

第1回 学習指導法研究発表会

期 日 昭和60年11月26日(火)
会 場 初倉南小学校(静岡) 電話 05473-8-3711

第4回 オープンスクール実践研究会

期 日 昭和60年11月29日(金)
会 場 卯ノ里小学校(愛知) 電話 0562-34-7977

第14回 教育改造研究会

期 日 昭和60年12月7日(土)
会 場 成城学園初等学校 電話 03-482-2106

第1回夏季研修会盛會裡に終了

期 日 昭和60年8月5日(月)・6日(火)

会 場 東京都板橋区立教育相談所

研修会参加者は全国各地から

研修会の参加者は、東京の27名を筆頭に、北は青森から、宮城、栃木、群馬、茨城、千葉、神奈川、静岡、愛知、三重、大阪、香川、福岡、大分と、そして南の沖縄まで80名にも達した。まさに、個別化教育の輪は大きく広がりつつあるという証左である。

研修会日程

第1日(8月5日)

1. 開会のことば 松崎事務局長
2. 会長あいさつ 染田屋会長
3. 講 義
「学習材の一般的性格と構成」①加藤副会長
4. 研究発表
「学習材の事例」 成田先生
安藤先生
5. 学習材づくりの実際 ①

グループに分かれて学習材を作成

第2日(8月6日)

1. 研究発表「個別化教育のあり方と実践」
 - (1) 個人差に応じた学習指導 中村研修部長
 - (2) 「オープンスペース」を活用して 成田先生
 - (3) 「空教室」を活用して 松田先生
 - (4) 「普通教室」を活用して 唐木先生
2. 学習材づくりの実際 ②
グループに分かれて学習材を作成
3. 講 義
「学習材の一般的性格と構成」②加藤副会長
4. 閉会のことば 中村研修部長

※ 学習材づくりのコンサルタントは、加藤副会長、成田先生、安藤先生、松田先生が担当。



松崎事務局長あいさつ

今回の夏季研修会についての概要が、60年2月22日付の日本教育新聞に研究会の一覧表の中の3番目に紹介されています。

私どもの全国個別化教育研究連盟は、昨年6月30日に、呱呱の声をあげました。事務局長といたしましては至らないことが多いかと存じますが、温いお見守りをいただき、感謝しております。

全国個別化教育研究連盟の望んでいるものが、今日的であり、我国の将来のために必要なことであると考え、使命観にもえまして、いささか努力をしてきました。その一つが本日の研修会でございます。

遠い所からお越しいただいておりますが、準備不届はお許しいただき、気持ちよく研修できることを念じ関係各位の協力に感謝しながら開会のことばとします。

染田屋会長あいさつ

東京は、19日間真夏日が続く連日暑さが続いています。全国各地から参集して2日間研修していただくことに對して、連盟としてもありがたくお礼申しあげます。

事務局長よりお話がありましたように、全国個別化教育連盟は、昨年6月発足以来、学習の個性化を提唱して全国各地に広めていくことで、加藤先生にご援助をいただきました。

この1年間、連盟としていろいろな行事をしてきました。関東地区においても3回研究会をもちました。今回全国的な研修会を開いたところ、定員60名をはるかに突破しました。このことは、この問題に関心が強いことを物語っています。

会報第4号に、私の個別化、個性化についての考えを述べています。特に、本年6月26日の臨教審の答申にも個性の尊重・個性の重視が強く叫ばれております。私どもと同じような考えを述べています。



第4回関東地区研究会

—菊薫る金沢小で—

個性の重視が、教育改革のバックボーンのようなものになっています。個性の尊重、自己責任が述べられています。個性と一口に言っても、個人の個性だけでなく、家庭、企業、文化、時代などの個性があります。

特に、一人ひとりの児童の個性を尊重して授業を展開しなければならないが、ややもすると、授業、指導が画一化され、個性・個人差を無視して一人ひとりの学習が成立しないで、はみ出してしまふ、おちこぼれになるということがでてくることは、児童にとって不幸なことです。

加藤先生は、この点に着目され、一人ひとりが学習に生きがいと喜びを感じる、そうした指導が必要であると指摘して指導してこられました。

理論はわかるが、実際にやっていくにはいろいろな問題がある、いいことはわかって、気がつかないことがある、学習材を今回の研修会で研究してお帰りのだけあればありがたい次第です。お互いに悩みをぶっつけ合せて研究し、暑いときで大変ですが有意義な研修会にしたいと思っています。

講義・発表・学習材づくり

加藤副会長から「学習材」の種類や構成について、具体的な「はげみ学習用の学習材。完全修得用の学習材などを理論づけた講義があった。

成田・安藤先生からは、緒川小学校で実践している学習材を例に、作成・活用の方法についての発表があった。

この講義と研究発表を受けて、参加者はグループに分かれて、「学習材」づくりをした。

中村研修部長より、それぞれの子どもの学習傾向をつかみ、援助を与える方法についての発表があった。成田先生（愛知）は、オープンスクールでの子どもたちの自学する実践を発表した。松田先生（千葉）は、児童数が減少し空教室が多くなり、その教室を活用した「たけのこ学習」などの実践を発表した。唐木先生（東京）は、普通教室での社会科の実践を発表した。それぞれ労法は異なっても密度の濃い内容であった。

参加会員の声

「この研修会へ参加して、今まで、もやもやしていた気持ちがふっきれた」「一人で模索し、悩んでいたことの解決の糸口がつかめた」「先生方の話と学習材づくりで内容の充実した研修会であった」「学習材をこれから一つでも多く作成し、実践しながら確かめていきたい」

研修会のあとには、和やかな懇親会

第1日目の研修会終了後、板橋区立金沢小学校（校長松崎事務局長）の教職員の手づくりの料理で、会費制の懇親会が行なわれた。

参加者は胸襟を開いて、学校での日々の実践を語り合った。教師の悩みや苦しみ、子どもの変容した喜びなどを忘れて語った。同じ仲間が、全国各地で活躍していることに意を強くした一夜であった。

（文責・編集部長 新井 久）

東京では、菊の花が開き始めた去る10月26日（土）の午後、板橋区立金沢小学校で、第4回関東地区研究会が開催された。染田屋会長、加藤副会長の出席のもと、予めお願いしてあったお二人の会員からの研究発表を中心に熱のこもった協議が行われた。

成城学園初等学校の武田恭浩先生から、同学園初等学校の自学学習法による個別化教育の実践報告があった。成城学園創設者である沢柳政太郎先生は、すでに大正6年「個性尊重の教育」を唱えられ、以来60余年にわたり国語科を中心に自学学習法が続いているとのこと。

自学学習法も、ダルトン式学習法、成城プラン（ダルトンプラン+ウイネットカプラン）、学級自学と方法の変化があった。

同学園の国語カリキュラムは、学習指導要領の毛筆・ローマ字は除いてある。他の学校が総合的な取り扱いをするのに対して、「文学」「読書」「劇」を別教科とする分化的な取り扱いをしている。

引き続き、小林昭彦先生から自学学習についての実践報告があった。同学園では教科の柱を「自然と社会の教育」「技術・技能の教育」「情操の教育」等6つの柱に分け、国語の読み、書きは「技術・技能の教育」にし、文学や劇は「情操の教育」としている。

学習の方法が独特の個別指導で、自学自習法により、能力に応じて進度差を認め、学級集団の中での個人別学習である。国語は、この個人学習を主体として学習を進めている。

この自学学習を進めるためには、研究書という名の手引き書を作り、この中に要素別の言語学習、読解学習、技術の指導をおり込んでいる。

低学年は、多読主義中心で、5社の教科書を読ませ、週2回の面接指導を実施している。中・高学年では「ことばの研究書」という手引き書の使用が中心となり、ステップ学習となっている。理解度は、低学年同様に面接によって把握する。

しかし、こうした実践にも読解技能を段階的に身につけられるような補助教材の開発が必要とされるなどの課題があるとのこと。

発表後、終了時刻を忘れて質疑・応答が行われた。加藤副会長より「自学の態度こそ、幼少の頃から身につける必要があり、労力や経費がかかっても自学の手引き書を作ること」の重要性について指導があった。

（取材・研究部 渡辺 茂）

秋が深くなって参りました。

この会報がお手許に届きますころのご当地は、もう初冬であるかもしれませんね。全国の会員の皆様、ひたすらなるご健闘ぶりを想像しながら、本稿をまとめています。きょう文化の日の東京は、すばらしい秋晴れです。

◇祝 東海個別化教育研究会の誕生

加藤幸次副会長先生をはじめ、関係の諸先生方のお骨折りによりまして、「東海個別化教育研究会」が、誕生いたしました。

同封別紙のように、すでにはなばなしい活動が開始されています。(同封別紙「東海個別化教育研究会報」所載の研修会のお知らせとしては、時期はずれであることは承知のうえで同封いたしました。活動ぶりをご紹介したいと存じたからです。)

まことにおめでとうございます。心からお祝い申しあげます。同時に事務局といたしましては、心からお礼を申しあげます。

と申しますのは、東海地区のこの壮挙は、じつは本会の理事会の申し合わせの線に沿ったことであります。

本年2月1日、緒川小学校(愛知県東浦町)において私どもの理事会は、つぎのように決議しています。

(1) 地域の研究組織の結成とその促進について

ア 全個教連の地方支部という考え方ではなく、全個教連の加盟団体という位置づけの研究組織とする。

イ 地域の範囲は、運営しやすい範囲とする。一定の行政区画にこだわらないでよい。(町、市、郡、県、地方のいずれでもよいし、このような行政単位を用いないでもよい)

ウ 各理事が、それぞれの地域で、中心となって促進する。60年10月末をもって、第1次目標日と定める。その日までに、極力ご努力のうえご結成いただきたい。

エ 趣旨を同じくする既にある団体に対しては、加盟方をおすすめする。

(2) 地域の研究組織(A)と全国個別化教育研究連盟(B)との関係について

ア Aは、自主的に定例研究会や研究発表会等を行う。Bは、会報の発行・夏季研修会の開設等を行う。AはBに対して、情報を送りBはそれらを全国的に紹介する。

イ 会員は、Bに対して年会費2000円を納入すると共に、Aに対しても、Aの決める会費若干円を納入する。(Aの会員はBの会費が軽減され1000円となる)

ウ Aの役員代表者は、Bの理事会であることが望ましい。

エ Aは、Bの設立趣旨・会則をふまえたうえで、会

則等をお決めいただきたい。

その第1号の誕生・発足というわけです。ありがとうございました。

◇ 総会予告

本連盟の総会を、昭和61年2月1日(土)午後0時30分～1時30分の適切な時間に緒川小学校で開催いたします。会長あいさつ、事業報告、その他という次第ですが、昼食時ですので、短時間で終了させたいと存じます。

については、事務局会等において、会務のまとめをきちんととして臨むべく努力中です。

◇ 単位研究会の発足を!!

私どもの連盟は〈単位研究会(あえて支部とは言いません)が発足し、活動する〉というのが、理想的な姿だと存じます。

60年2月の理事会の線でのご努力をお願いします。東海個別化教育研究会発足の模様は、同封別紙(水色)のとおりですので参考にご覧ください。

◇ 当面の事務予定

1. 研究紀要の編集・発行

このことについては、目下準備中です。ご協力ください。

2. 名簿の印刷について

このことについても、12月末しめ切りの会費ご納入を待って、作成予定です。

◇ 緒川小学校で

第6回 オープンスクール公開実践研究会
が開かれます

61. 1. 31 (金)

61. 2. 1 (土)

百聞は一見に如かず、と申します。本号第1面の研究会ともどもふるってご参会ください。

連盟へのご用は……

お問合わせやご助言は

〒173 東京都板橋区加賀2丁目2番1号
板橋区立金沢小学校
電話(03)964-3068(校長室)

全国個別化教育研究連盟事務局長 松崎 二葉
加入手つづきは

〒174 東京都板橋区小豆沢4-13-1
板橋区立志村第四小学校
電話(03)966-3542

全国個別化教育研究連盟事務局次長 清水 昭